

# 人間関係を深める実習日誌の指導方法 —「実習のねらい」を学びに生かす言語表現—

## A Study about the Training Diary Writing for Pre-Service Practical Training in Childcare

(2017年3月31日受理)

小 野 順 子

Junko Ono

**Key words :** 保育者養成, 保育現場, 人間関係, 保育・教育実習, 実習の記録, 実習のねらい, 言語表現

### 抄 録

本研究は、保育者養成校の学生が保育・教育実習に参加し、その体験が保育者の専門性の中でも他者との関わりの向上に結びつくことを目指す実習日誌の記入方法及び記入に関する指導方法を明らかにすることを目的としている。形式を文献にて考察し、その内容について実習生の実習日誌の分析を行いPDCAサイクルを判断基準として評価した。その結果として明らかとなったのは、「実習のねらい」が「反省・感想」に応答的に関連されていることである。そしてそのためには、形式を固定化する方法が有効であるという結果を得た。

### 1. は じ め に

保育・幼稚園教育実習は、保育者を目指す学生が今まで身に付けていることを基にして、保育者としての実践力を身に付ける学びの場である。養成校で学んだ幼児や保育に関する知識や技術を基に、実習園において保育の実践をする貴重な機会である。「実際の幼児の姿に触れて養成校で学んだ知識や技術をより確かなものにしたがり、幼稚園教諭の仕事や役割について学び、保育者としての使命や責任を自覚し、資質を高めたりすること」[森元真紀子・小野順子編著, 20011]を目的としている。具体的な目標としては、幼稚園教育実習の場合、次のように筆者は学生に伝えている。「幼稚園教育を知る、幼児を理解する、幼稚園教諭の仕事の内容と役割について理解する、幼稚園教諭としての指導技術や態度を身に付ける、幼稚園の社会的役割を知る、幼稚園教諭としての資質を高めるための課題を見つける」[森元真紀子・小野順子編著, 20011]

実習とは、保育者養成校の学生が保育現場である実習

園を行き、子どもたちの中で「先生」として生活することである。実習の目的・目標を達成するためには、はじめて保育の現場に行った学生は、園の生活を見て一日の生活の流れの中で、子どもの動きを観察し、保育者の行動や言動を理解しなければならない。そのためには、保育者の動きをよく見る必要がある。子どもに関わる時、どのような言葉を使うのか、どのような口調なのか等、それぞれの子どもへの対応はどのようにしているのかしっかりと見て、その行動の裏にある保育者の意図を理解しなければならない。なぜなら、保育の場で、子どもを理解しようとする時「一人一人の幼児と直接に触れ合いながら、幼児の言動や表情から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その幼児のよさや可能性を理解しようとする」[文部科学省, 2010]と同時に、子ども理解をその後の環境構成や援助を考える視点とし、「活動を注意深く観察し、そこから子どもの中に何が育ち、どのような経験・学習が行われているのかを把握する」[糺島香代, 2008]ことが同時に行割れているからである。

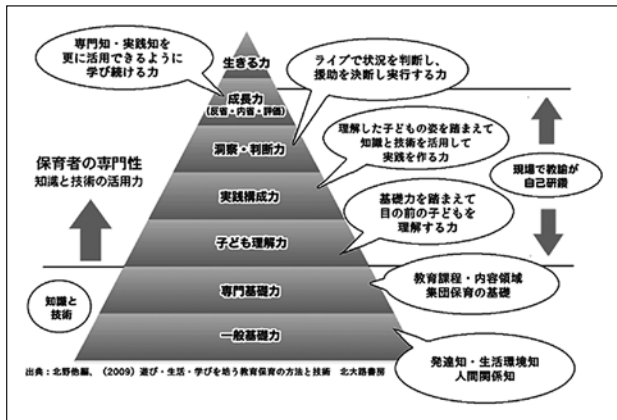


図1は保育者の専門性の構築を図示したものである。このように大学における知識・技術を保育現場での自己研鑽によって保育の専門性が高まる。従って、保育者となるための保育現場での実践は重要な意味を持つのである。

しかし、保育の場は常に動いている。その時その時の保育者の思いを理解するためには、保育者の行動を子どもの動きと結び付け、そこにある保育者の思いを考えなければならない。保育者も、その時その時の自分の行動の意味を問い直さなければならないのである。ここに実習における日誌の意義があると考えられる。

そこで、本研究では養成校の学生が保育・教育実習に参加し、その体験が保育者の専門性の向上に結びつくことを目指す実習日誌の記入方法及び記入に関する指導方法を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の方法

### (1) 研究の対象

保育・教育実習は、保育所、保育所以外の児童福祉施設、幼稚園、認定こども園など様々なタイプの施設で行われる。従って、実習日誌といっても様々な形式や内容があり、実習先によって細かく考察する必要がある。しかし、本研究は実習における目的・目標が効果的に達成される実習日誌の記入方法と指導方法について考察することを目的とする。従って、保育者志望学生の多くが実習を行っている保育所と幼稚園における実習日誌を研究対象とする。

### (2) 研究の方法

目的を達成するために、以下の3点で分析、考察を行うこととする。

- ①実習日誌の形式と内容について文献を基に考察する。
- ②実際の実習日誌を分析し必要な項目と記入内容について考察する。この時、学生が実習の目的・目標を達成できているかを評価のポイントとして分析する。
- ③②で明らかとなった項目と記入内容を学生が理解しやすい指導方法について考察する。

### (3) 倫理的配慮

本研究の遂行にあたって、事前に実習日誌提供者に研究目的を説明し、実施への許可を得た。また、本論文を発表するにあたり事前に内容の確認を依頼し、承諾を得た。なお、プライバシー保護のため、本論文に登場する関係者や場所が推測できると考えられる事項は全て仮名とした。

## 3. 結果と考察

### (1) 実習日誌の形式と内容について

実習日誌の形式は養成校によって異なる。富山国際大学の開仁志は保育に関する実習日誌の形式を6つの型に分類している。①流れ記録型②指導案情報獲得型③活動まとめ型④エピソード記録型⑤エピソード記述型⑥指導案振り返り型〔開仁志, 2012〕

そして、実習の段階によって実習日誌に求められる目的が異なるので、各段階にふさわしい形式について考察し結果を出している。

それによると、実習段階の「観察実習」では参加実習に向け、「客観的に担任保育者と子どもとのかかわりを見て学ぶことが求められる」〔開仁志, 2012〕ので、1日の流れを記録することが出来る「流れ記録型」に加えて、担当保育者の行動の背景に思いを至らせる必要があるので「エピソード記録型」である。次の段階である「参加実習」では、「指導実習に向け担当保育者の指導のもと自分なりのめあてをもち、具体的に子どもとどうにかかわりたいのかという行動目標を持つことが求められる」〔開仁志, 2012〕ので、実習生自身が保育の中で得た学び

を描くことが出来る「エピソード記述型」に加えて、次の段階で指導案を書くので「指導案情報獲得型」である。なお、「エピソード記録型」とは1日の流れを活動のまとまり毎に一つのエピソードとして捉え、子どもや保育者のやりとりを踏まえながら書くものであり、「エピソード記述型」とは1日の中で特に心に残ったエピソードや実習のめあてに関係することを中心に、克明に書くものである。「エピソード記録型」との大きな違いは「事実と考察の部分を分けずに書き、実習生が子どもの姿をどう読み取り、どんな気持ちで関わったのか、主観を交えながら書くこと」[開仁志, 2012]である。最後の「指導実習」では指導案をもとにした実習をするので、1日の流れを活動毎にまとめた「活動まとまり型」または、指導案をもとに指導実習を行った後に振り返るので「指導案振り返り型」が望ましいとしている。(表1～8参照)このように、開は実習の段階に添って実習日誌の形式を断定している。これらを見て気がつくのは、どの形式にも共通するのは、保育の前に学生は「今日のめあて」保育者は「今日の保育のねらい」を持ち、保育終了後、学生は「今日の反省と明日への課題」保育者は「所感」を記入することである。

このことは、保育実践の評価の考え方である「らせん状の学習モデル PDCA」を意識したものであると考える。つまり、Pを実践計画と考え、子どもの現在の姿からねらい・内容を設定し、評価の観点として具体的に何を観るのかを定める。次に保育者が期待する子どもの姿を見通しながら方略として環境構成と保育者の援助を工夫する。Dは実践または実行であり、子ども側からいうと遊びの展開、保育者側からいうと保育実践となり、立案を基に子どもの姿に応え修正しながら実践する。Cは評価である。子ども自身の評価は、この遊びがおもしろかった、また続きをしてみたい、今度はこんな道具を加えてダイナミックにつくり変えたい、失敗してしまった、どこがまずかったのだろうか考える、わからないから調べる、あらためてやってみたいなどである。しかし、保育者の評価(自己評価)は、保育の実践記録を基に子どもの遊びの学びをみとり、計画段階の評価の観点と照らし合わせる。そして、次の計画に生かす。このことが、Aの再構築である。保育者の自己評価から環境構成、援助(この遊びからこんな子どもに育ってほしい具体的な姿

をもち、援助を工夫する)を省察し保育者自身の学びを継続することである。このPDCAサイクルによって実習を効果的にすることであると考える。

つまり、日誌の形式は実習の段階が観察から参加、指導に進むに従って変化していくものであろうが、内容には「今日のめあて」「今日の保育のねらい」「今日の反省と明日への課題」「所感」が含まれる必要があり、そのことによってPDCAサイクルによる学びの深まりが実施されなければならないという結論である。

## (2) 実習日誌の分析

本学の実習生が書いた実習日誌の中から2つの実習日誌を選び、その記述内容を分析する。この時、前項で明確にしたPDCAサイクルによる学びに焦点を当てるため、「今日のめあて」「今日の保育のねらい」「今日の反省と明日への課題」「所感」を中心に分析する。

実習日誌を選んだ基準であるが、まず園のタイプが同じであることを重視したので、どちらも公立幼稚園で園児数も考慮した。そして、明確な違いが出るように、一つは標準的な成績の学生が書いているがPDCAサイクルの出現が明確なもの、他方は成績優秀な学生が書いているがPDCAサイクルの出現が不明確なものにした。そして、分析とともにインタビューも行い、学生が意識した記述方法についても分析の対象とした。

なお、本学の実習日誌は「エピソード記述型」と「指導案振り返り型」の併用タイプであり、「今日のめあて」は「実習のねらい」、「今日の保育のねらい」は「保育のねらい及び内容」、「今日の反省と明日への課題」は「1日の反省・感想」、「所感」は「指導・助言」となっている。分析した結果は、以下のように表記している。また、分析結果に関係ないと思われる箇所は、プライバシーに配慮して読むことが出来ないよう小さなフォントにしている

下線部：自分が設定したねらいの達成に関する記述

二重線部：一日の実習の振り返りから得た次の課題

波線部：実習生のねらいに関する実習指導者のコメント

実習指導者が考える次の課題

## PDCAサイクルの出現が明確な実習日誌

## ○実習 1 日目

## 〈実習のねらい〉

## 幼児の名前を覚える

## 〈一日の反省・感想〉

今日は、実習初日で緊張していたが、朝幼児たちが登園してき、挨拶をすると、笑顔で挨拶をしてくれ、たくさんお話もしてくれたので、大変うれしかった。ボランティアで行った時のことを覚えてくれている幼児もいたので、うれしかった。

今日は「幼児の名前を覚える」というねらいを自分で立て、実習に臨んだ。初めの方は、名札を見てから名前を呼んでいたが、給食の時間が終わった頃から顔と名前が少しずつ一致するようになった。

しかし、女の子の名前を覚えることがまだ出来ないので、早く覚えられるように明日の実習に臨みたいと思う。

実習初日ということもあり、幼児の生活の流れを把握していなかったため、何をしたら良いのか分からず悩んでしまうことがあったため、もっと積極的に先生へ質問をしていこうと思った。

また、今日は、ももたろうクラブで保護者の方と一緒に横断歩道を渡る練習をしたり、小学校に行き、県警鼓笛隊の演奏を聞いたりしたが、幼児の保護者との関わり方や、聞いている時の態度であったり、集中力がきれてしまう時間など、分かったような気がしたので、とても良い1日になった。

## 〈指導・助言〉

いよいよ最後の教育実習ですね。今まで得た経験とこの実習でのねらいをしっかりともち一日一日を大切に充実した実習となるように頑張ってくださいね。(中略) 異年齢児との自然な交流を通して一人一人を大切にしながら保育をしています。また、地域の方との交流や行事の多い時期です。ひとつずつより意義のある活動になるよう計画、実践、反省、記録を心がけています。一緒に楽しみながら幼児の様子、職員の動き、指導計画などをしっかり把握してください。

## ○実習 2 日目

## 〈実習のねらい〉

## 女の子の名前を覚える

## 〈一日の反省・感想〉

今日はT小学校で保幼小交流会があったので、朝も幼稚園に登園するの

ではなく、公民館に集合でした。いつもと集合場所が違うこともあり、登園してくる時よりもみんな元気よくテンションが高いなと感じ、普通に登園する時との違いを感じることができた。また、交流会では、最初は、みんな緊張している姿が見られ、とてもおとなしく見られたが、知っている1年生の子が司会をしている姿や遊びをしていく中で緊張もほぐれ、楽しく遊べていたので、幼稚園のときとは違う姿を見ることができた。帰りは、みんなで歩いて帰ったが、普通なら1時間くらいはかかるところを45分で帰ることができ、さすが店長さんだと思った。歩くスピードも早く、長い距離を歩く体力も十分付いているのだと学ぶことができた。

今日は「女の子の名前を覚える」というねらいを立てた。昨日、男の子の名前をほぼ覚えることができたため、今日は女の子の名前を覚えようと思った。女の子は4人しかいないため、すぐに覚えられと思っていたが、とても時間がかかってしまった。だが、名前を呼びながら生活していくことで、昨日より女の子が話しかけてくれることが多く、名前を呼んであげるということは大切なことだと改めて学ぶことができた。

## 〈指導・助言〉

二日連続の園外保育でした。昨日とは違う様子が見られましたね。心の動きをしっかりと捉えることができています。ハイテンションの幼児、緊張している幼児、大勢の友だちとのふれあいを楽しんだ幼児、不安でどう動いたよいか戸惑っていた幼児…それぞれでした。

園外に出かける時は安全第一で行動するようにしています。また、集団で行動するときの約束や歩き方も指導しました。

一年生と一緒に入学する保育園との交流会で4月の入学への期待が少し高まったようです。

実習1日目は簡単で具体的なねらいを立てている。そのため達成度も自己評価しやすく、次の日の課題を見つけやすかったようである。しかし、実習担当保育者は、もっと保育の確信に触れるような課題を要求しているが、実習生は気づいていない。実習開始から1週間ほどはこのような状態が続いている。しかし2週目になると、実習生の気づきが深まり、実習担当保育者とのやりとりが応答的になる。それが、以下の日誌である。

## ○実習 7 日目

## 実習のねらい

中学生との交流会を観察し、普段の活動の様子との違いを見る。

## 一日の反省・感想

今日は、中学生との交流会があったので、「中学生との交流会を観察し、普段の活動の様子との違いを見る」という目標を立てた。たくさんのお兄ちゃん・お姉ちゃんがきてくれるということで幼児たちにどういった姿がいつもと違うのか観察してみたいと思い、目標を立てた。

初めの自己紹介の時から、ほぼみんなが緊張してしまし、全くしゃべらなかつたり、おもちゃの体験をしなかつたりという姿が見られた。初対面で大勢の中学生がいたということで、とても緊張していたのだと思った。好きな遊びをする時も自分から話しかけられていける幼児はすんなりと遊べていたが人見知りの幼児は、教師のそばで困っている様子が見えた。自分から話しかけていくのが難しい幼児には、積極的に話しかけてあげる必要があると思った。また、そんな時には教師が間に入り、話しやすくしてあげるということが大切だと思った。慣れるまでには時間がかかるが、積極的に話しかけられていくことが、仲良く遊ぶための一番の近道だと思うので、私も人見知りをしていると思う幼児には積極的に話しかけたいと思った。今日の交流会で初対面の人と幼児がどう関わっていくのかという姿が見れ、とても勉強になった。

## 指導・助言

今日は外部の人が園に来て、子どもたちの様子が様々だったと思います。自分から積極的に関わることができる幼児や周りの様子をうかがっている幼児など個人の性格が見取れたと思います。中学生との交流で見られた一人一人の姿を実習するときにも踏まえていけば良いと感じます。子どもたちに普段から「自分でやってみる」ということを大切に保育を進めています。それは教師にも求められる部分だと思いますので、何事にも自分なりに考えてやってみ

## てください。

また、実習の終わりにになると指導実習が多くなるため、「ねらい」はより具体的で専門性を帯びたものとなる。それが以下のものである。

## ○実習 17 日目

## 実習のねらい

幼児がどのような活動に、どのような興味を持っているかについて理解する。

## 一日の反省・感想

今日は「幼児がどのような活動に、どのような興味を持っているかについて理解する。」という目標を立てた。

幼児が興味を持っている遊びとしては、ドッジボールに最近では興味を持っていると思った。S幼稚園の友だちとしたということも大きいですが、ボールを投げたり、捕ったりする活動に興味を持ち、好きなのではないかなと思った。遊びをする時には、幼児がどういった遊びに興味を持っているのかや、どういった動きが好きなのかを理解し、遊びを考えていく必要があると思った。

今日は、全日指導で「さつまいも作り」をした。さつまいも作りでは、はさみやのりを使用した作成する前にはさみの使い方のポイントやのりの付け方などの話をした方が、もっといい作品ができていたのではないかなと思った。製作をしてみて感じることは、幼児の性格やこだわりがすごくわかるなと感じた。小さく紙をちぎり、端っこまでしっかり貼っている幼児や、紙を重ねて貼るなどして作成している幼児がいたり、とても個性がでたなと感じることができた。他に反省することはみんなで共有するときに、みんなを集めて話をするのが大切だと学んだ。集まることでしっかり話が聞ける雰囲気ができると分かった。

## 指導・助言

遊びをしていく中で、幼児が何に興味・関心をもっているかを読み取っていく力が求められます。幼児の興味・関心なしでは遊びを進めていくことはできません。普段から幼児一人一人の遊びの姿をしっかり捉えていくことが大切となります。また、表面だけでなく、内面にある心の動きも読み取る力ということが教師の資質として求められると思います。人

心の動きや気持ちを捉えていくことは難しいことですが、教師が意識してみることで少しずつ分かっていくことが増えてきます。さつまいも作りでも幼児が関心をもっていたからこそ、一人一人の個性が出たのだと思います。自分で作った作品を見て、とても喜んでいましたよ。

どこをねらってボールを投げたら当たるかを知ることなど、大人にとっては当たり前のことに感じますが、幼児にとっては一つ一つが学びとなり、次のステップへと繋がっていきます。幼児が主体となって遊びを進めていくことは難しいことですが、夢中になって遊び込むために教師が日々思いを持って遊びに入り込むことが、大切となります。

#### ○実習18日目

##### 実習のねらい

何をしたいかというねらいを持って、好きな遊びをする。

##### 一日の反省・感想

今日は、「何をしたいかというねらいをもって好きな遊びをする」という目標を立てた。最近ではドッジボールに興味を持って遊んでいる幼児が多く、今日もドッジボールをしようという思いで、好きな遊びをした。好きな遊びの時間になると自分からドッジボールをしようと呼びかけることができ、ドッジボールをすることができた。チーム分けの時には、できるだけ口は出さず、幼児が自分たちで考えてチーム分けをできるようにした。人数が合わないときだけ「どうしたらいいかな？」と声かけをし、どうしたら人数が合うのか考えられるように遊びを進めていった。すると、幼児自ら友だちを誘いに行き、幼児だけでチーム分けができ、良かったと思った。ドッジボールでは、ボールが回ってこない幼児もでてくるため、そのときには教師がパスをしたりなどし、全員が楽しめるようにする説くことが大切だと思った。

遊びをする時には、教師が何を体験させたいかという思いを持って遊びに誘ったり、環境構成をしたりすることが大切だと学ぶことができた。なので、今後の保育に生かしていきたいと思った。

##### 指導・助言

好きな遊びの中で幼児が学ぶことが多いです。そのため、遊びにねらいをもっていく必要があります。今、年長児の中で一番興味のあるドッジボールの遊びの中でも、友だちとチーム分けを相談すること、

PDCAを意識して分析すると、Pの実践計画では、自分の現在の姿からねらいを設定し、評価の観点として具体的に何を観るのかを定めたのが「幼児がどのような活動に、どのような興味を持っているかについて理解する。」というねらいである。次にDは実践または実行であり、保育者が期待する子どもの姿を見通しながら方略として環境構成と保育者の援助を工夫する。子ども側からいうと遊びの展開であるが、実習生側からいうと保育実践のエピソードと内面理解となり、ここでは中学生の中の子どもの様子と自分の見取りを記述している。そしてCは評価であるが、ここでは実習担当者の指導助言にある「今日は外部の人が園に来て、子どもたちの様子が様々だったと思います。自分から積極的に関わることができる幼児や周りの様子をうかがっている幼児など個人の性格が見取れたと思います。中学生との交流で見られた一人一人の姿を実習するときにも踏まえていけば良いと感じます。」となる。これを実習生の評価（自己評価）の観点と照らし合わせて、次の計画に生かす。このことが、Aの再構築である。ここでは、「普段から幼児一人一人の遊びの姿をしっかり捉えていくことが大切となります。また、表面だけでなく、内面にある心の動きも読み取る力ということが教師の資質として求められると思います。人の心の動きや気持ちを捉えていくことは難しいことですが、教師が意識してみることで少しずつ分かっていくことが増えてきます。」という実習担当保育者の言葉を踏まえて、次の日のねらいに生かすことができていく。そして、前日と同様に、PDCAサイクルの学びの深まりを日誌から伺うことが出来る。保育者の自己評価から環境構成、援助（この遊びからこんな子どもに育ってほしい具体的な姿をもち、援助を工夫する）を省察し保育者自身の学びを継続する保育に繋がる実習の姿であると考える。

次に、PDCAサイクルの出現が不明確な日誌を次に分析する。まず、実習の一日目の日誌を以下に記す。

#### ○実習 1 日目

##### 〈実習のねらい〉

教師の子どもへの声かけや援助の方法を観察する  
〈一日の反省・感想〉

実習初日ということもあり、環境整備では自分は何をすればいいのか、どこに何があって、どれを使えばいいのかなど分からないことばかりで、質問してばかりだったので、先生やもう一人の実習生さんに迷惑をかけたなと思う。何かしなければ、自ら気がついて行動しなければと思って忙しそうに働いておられる先生方に、余計なことをしてまた迷惑をかけてしまったらと考えてしまい、行動が遅れてしまったことが一つ目の反省点だ。今日、いろいろな環境整備の方法を学んだので、明日からは積極的に行動したいと思う。

また、保育所実習で学んだ先生の子どもへの援助方法との違いや子どもたちの様子にとっても驚いた。子どもたちは先生から何も言われなくても自分たちで声をかけ合って気づき、自分たちで解決していた。

先生もそんな子どもたちを信頼してか、必要最低限の声かけしかされておらず、お互いの信頼関係を深さに感動した。しかし、それに慣れていない私はA男に過度な声かけをしてしまったことを反省したい。給食を他の友だちが片付けたのに、まだ食べ終わっていないA男に声をかけてと先生から指示をいただいたので、声かけをいっしょうけんめいしていたが、なかなか食べづれなかった。後から、支援を要する子どもだということをお聞きして、私の声かけは混乱させたとともにストレスを感じさせてしまったということに気づいた。(中略) 抽象的かつ想像しにくい声かけだった  
なと反省した。「いつもはこんなにおそくならないんだけど」と言われて、もしかしたら私の声かけがなければ、周りの友だちの声かけがあれば、もっと早く食べることが出来ていたのかなと思った。だから、明日からの実習では声かけの仕方や援助方法をしっかり見学し、自分のものに出来るよう努めたいと思う。

##### 〈指導・助言〉

運動会の後の初日なので、体調の優れない子や欠席もありバタバタしましたが子どもたちは運動会でした種目の再現遊びを楽しんでいましたね。4歳、5歳の年齢の発達の違いもあり、同じ5歳児でも個人差があり、支援の必要な子どももいます。一人一人に寄り添い、何を楽

しんでいるか、友だちとどう関わり自分たちで遊びを進めているかなど見学しながらしっかり見て下さい。いろいろよく気がついて動いていると思いますよ。

この日誌を見ると、実習第1日目の「実習のねらい」を「教師の子どもへの声かけや援助の方法を観察する」という抽象的なものに設定したため、保育を観る視点が絞れずその結果、教師の声かけを

「必要最低限の声かけしかされておらず」と捉え、「お互いの信頼関係を深さに感動した」という結論としている。曖昧な結果であったため、担当保育者は「一人一人に寄り添い、何を楽しんでいるか、友だちとどう関わり自分たちで遊びを進めているかなど見学しながらしっかり見て下さい」と次の課題を示したが、次の日の「ねらい」は「声かけ以外にどんな指導方法があるか拝見する」であった。

実習の前に「ねらい」を持ち、その視点で実習を行い、それについて反省することによって、実習担当者から次の課題に関する示唆を得られるというサイクルが機能していないと感じる。

#### (3) 実習日誌記入の指導方法

どのように日誌記入を指導すれば良いのか、そして記入内容を学生が理解しやすいのかという指導方法について考察する。

2つの日誌を比較すると、「ねらい」の具体性に違いが見られる。最初の実習生は実習第1日目の「ねらい」は「幼児の名前を覚える」と具体的でシンプルであったが、後者の実習生は「教師の子どもへの声かけや援助の方法を観察する」と実習全体で解決するような深く広い「ねらい」であった。そのため、観察の視点が定まらず達成度も明確にならなかったのであろう。学生には「ねらい」はかなり具体的にもつよう指導する必要がある。筆者が使用している教科書には、以下のように記述されておりこれに基づいて指導している。しかし、学生の捉え方には大きな差があることが今回の分析で明確となったので、学生への伝え方をより工夫する必要があると感じた。

## 教科書の表記

## (3)「実習のねらい」をもちましよう

「幼稚園での、今日、一日の生活の中で何を学びたいのか」を具体的に考えることを、その日の「実習のねらいをもつ」といいます。慣れない幼稚園での生活では、右往左往しているうちに1日が終わってしまい、実習日誌を書くときになって何を書いたら良いか困ってしまいます。そうならないように、次の日、自分が担任の先生の保育や子どもたちとのかかわりを通して学びたいことを具体的に考えておきましょう。

## (4)「実習のねらい」の考え方

「実習のねらい」を考える時、まず幼稚園の生活の中で、自分が「知りたい」「はっきりさせたい」と思うことを具体的に考えます。例えば「片付けの時、先生は、どこでどのような援助をしているか」「遊びの場面、登園などの生活の場面ごとの、ものの配置はどうなっているか。また、誰がいつ入れたり出したりしているか」などです。実習の初めの頃は幼稚園での生活に慣れるためのことを中心に考えますが、生活に慣れてきた頃からは、指導案を書くことを意識して、自分が指導する場面での先生や幼児の動きや環境構成のあり方を中心に具体的に考えましょう。〔森元眞紀子・小野順子編著、20011〕

また、実習日誌の記入方法であるが、1日の反省・感想を書くとき、本研究で取り上げた学生がしているように最初に「今日のねらいは……」から書き始めるようにすると、自分のねらいを頭に明確に浮かべることが出来る、従ってそれを中心に保育を振り返ることが出来るのではないか。文章を書くことが得意な学生は、文章の形式を固定化することに抵抗を感じる傾向があるので、形式を日々変化させて書こうとし、その結果、自分のねらいが曖昧なまま保育の振り返りをしているようである。従って、振り返りをする前に最初に、その日のねらいを書くよう指導することが重要と考える。

次に、実習生や実習担当保育者が書いた「次の日の課題」が実習生のねらいに反映していないことが問題であると考え。自分の日誌を読み、次の日のねらいを考え

ることが徹底していないからであろう。この問題を解決するために、本研究の分析で行ったように日誌に自分が設定したねらいの達成に関する記述には下線を引く、一日の実習の振り返りから得た次の課題には二重線を引く、実習指導者が示した次の課題には波線を引くというような指導をすると、次の課題を意識して、翌日の実習のねらいを考えることができるのではないか。

## 4. 終 わ り に

保育者は「子どもの心持ちに共感する専門性は頭で理解していても、大勢の子どもに関わりつつも特定の子に添う重要な瞬間を判断し適切に関わる」〔秋田喜代美、2013〕ので、保育にとって「子ども理解」の重要性は言うまでもない。そして、その基本となるのは「子どもの気持ちを受け止め」「共感し」「子どもの立場になって」「子どもの内面を推察する」ことであるが、これらを真に可能にするのは「保育者と子どもの心と心の繋がりが中心に来る」〔鯨岡峻、2013〕ことである。

養成校には多様な学生が入学してくる。本学のような短期大学では、2年間で学生を保育者に育てなければならない。大学での講義で得た知識や技術を現場で活かしていくためには、現実と自分自身が学んだ知識・技術を往還させることが必要である。そのためには、40日間の保育実習と4週間の教育実習が重要となる。実習を効果的にする方法は様々であるが、本研究では実習日誌の記述方法から実習担当保育者との関係性について考察した。

「保育」という仕事は「その場で子どもの心の動きを、あるいは状況を理解し、その理解に従って、子どもに応答していく。理解は精神的行為であり、応答は身体的行為であり、保育において両者一つの行為である」〔津守真、1980〕のは明白であるが、事実から導き出された結果を次の行動に結び付けることを学生が獲得出来るような指導方法について、今後も研究を続けたい。

## 引 用 文 献

開仁志. (2012). 保育に関する実習日誌の形式. 富山国際大学子ども育成学部紀要 第3巻.



鯨岡峻. (2013). 子どもの心の育ちをエピソードで描く. ミネルヴァ書房.

鯨岡峻. (2013). 子どもの心の育ちをエピソードで描く. ミネルヴァ書房.

厚生労働省. (2008). 保育所保育指針. チャイルド社.

厚生労働省. (2008). 保育所保育指針解説書. フレーブル館.

佐伯胖. (2001). 幼児教育へのいざない. 東京大学出版会.

秋田喜代美. (2010). 保育のおもむき. ひかりのくに.

秋田喜代美. (2013). 総論 保育者の専門性の探究. 発達, 18.

森元眞紀子・小野順子編著. (2011). 準備と自己評価で実力をやしなう 改訂版 幼稚園教育実習. ふくろう出版.

津守真. (1980). 保育の体験と思索—子どもの世界の探求. 大日本図書.

津守真. (1980). 保育の体験と思索—子どもの世界の探求. 大日本図書.

津守真. (2013). 保育の現在—学びの友と語る—. 萌文書林.

文部科学省. (2008). 幼稚園教育要領. チャイルド社.

文部科学省. (2010). 幼稚園教育指導資料第三集 幼児理解と評価. ぎょうせい.

梶島香代. (2008). 保育における幼児理解のあり方—保育学科学生の幼児理解の実態分析を通して— 著: 文京学院大学人間学部研究紀要vol10.No.1 (ページ: 71-72).

表 1 流れ記録型

月 日 ( ) 曜日		天候	歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			今日の主な活動	
今日の保育のねらい			今日の保育の内容	
時間	環境の構成	子どもの活動 (姿)	保育者の援助・配慮	実習生の動き・気付き
9:00				
10:00				
16:00				
今日の反省と明日への課題			指導者の所感	

表 2 指導案情報獲得型

(指導案を書く時に必要な情報を視点ごとに記録するもの)

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			
視点	記録 (子どもの姿)		考察
<イメージ・興味・関心>			
<先行経験>			
<人間関係>			
今日の反省と明日への課題		指導者の所感	

表 3 指導案情報獲得型

(指導案を書く時に必要な個々の姿を把握するもの)

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			
子どもの氏名	記録 (子どもの姿)	考察	
A・K (女)	<体力面> <意欲面>		
D・I (男)	<体力面> <意欲面>		
Y・R (男)	<体力面> <意欲面>		
今日の反省と明日への課題		指導者の所感	

表 4 活動まとめ型

(時間に沿って必要事項や手順を確認するもの)

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			
子どもの活動・姿	環境の構成・保育者の援助	指導者の所感	
<登園時>8:30~9:00			
<自由な遊び>9:00~10:30			
<片付け>10:30~10:00			
<集まり>11:00~12:00			
<給食>12:00~13:00			
<自由な遊び>13:00~14:00			
<降園時>14:00~14:30			
今日の反省と明日への課題			

表5 活動まとめ型

(自由な遊びの時間で子どもの姿の特徴をとらえるもの)

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習生のめあて			
保育室			
ままごと遊び		廃材工作	
お絵描き			
<参加者>	<参加者>	<参加者>	
<特徴>	<特徴>	<特徴>	
<課題>	<課題>	<課題>	
遊戯室			
大型積木		巧技台でサーキット	
大縄跳び			
<参加者>	<参加者>	<参加者>	
<特徴>	<特徴>	<特徴>	
<課題>	<課題>	<課題>	
園庭			
砂場遊び		鬼ごっこ	
虫探し			
<参加者>	<参加者>	<参加者>	
<特徴>	<特徴>	<特徴>	
<課題>	<課題>	<課題>	
今日の反省と明日への課題		指導者の所感	

表6 エピソード記録型

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			
時間	1日の流れ	記録 (子どもの活動・保育者の援助等)	考察
今日の反省と明日への課題		指導者の所感	

表7 エピソード記述型

月 日 ( ) 天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の実習のめあて			
記録			
<〇の場面>			
エピソードの考察		指導者の所感	

表8 指導案振り返りタイプ

(指導案をもとに実践した後、振り返って書く)

月 日 ( ) 曜日		天候		歳児 名 組 欠席 名	
今日の保育のねらい			今日の保育の内容		
時間	環境の構成	子どもの活動	保育者の援助・配慮	考察	
カンファレンス (反省会) から学んだこと					

※表1～8は開仁志. の「保育に関する実習日誌の形式.」

(富山国際大学子ども育成学部紀要 第3巻) より引用